



## 各種学力調査の結果について

今年度、4月に各学年で実施した各種学力調査の結果についてお知らせします。

### 1 全国・県・市学力調査の結果（全国・県・市と本校生徒の平均正答率の比較）

上回る：○ ほぼ同等：≡ 下回る：▲

|      | 国語    | 数学    | 英語          | 理科 |
|------|-------|-------|-------------|----|
| 第1学年 | ▲（市）  | ≡（市）  | 9月24日 IBA実施 |    |
| 第2学年 | ○（県）  | ▲（県）  |             |    |
| 第3学年 | ○（全国） | ○（全国） |             |    |

### 2 成果と課題、今後の取組

#### <3年>

各教科の正答率は、どの教科も全国平均を上回り、英語科も県の平均を上回り良好な結果であった。

国語科は昨年度から正答率の大きな低下は見られず、少しずつ力はついてきている。自分の考えの根拠を明確にして表現する問題に関しては国や県に比べて、得点率が高く、無解答率も問題によっては0%と確実に成果を上げている。その一方で、問題の意図を読み取る力や読み取った情報を言語化する力の不足が感じられる解答も多々ある。今後は、問題のパターンに沿った答え方や自分の思いを言語化するための語彙力の向上を中心に授業内で演習に取り組んでいく。

数学科は、学習指導要領のほとんどの領域で長崎県や全国の平均を上回っており、1年生の段階から確実に学力が定着している。特に、自分の考えの根拠を問う問題に関しては、長崎県や全国の正答率をおよそ20%以上も上回り、無解答率もかなり低い。しかしながら、知識を問うような基本的な問題に関しては、正答率が低い問題も数題あり、正しく覚えなおす必要がある。今後は、下位学年の学習内容を振り返りながら、授業中に復習する機会を多く取り入れるとともに、学びのプランを活用しながら、生徒自身で毎回の授業の理解度を把握させたり、分からなかった問題の復習をさせたりしながら、更なる学力向上に取り組む。

英語科は、日常的な話題について、必要な情報を「聞きとる」、「読みとる」ことに関しては、ほとんどの項目で、県を上回っている。知識・技能の観点で県を6%上回っているところからも、基本的な力はほとんどの生徒が身につけている。一方、思考・判断・表現においては、県の平均も低いですが、本校はそこからさらに3%下回っている。日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を「書くこと」や、社会的な話題について書き手の意見に対する自分の意見とその理由を「書くこと」においてはかなり県を下回っていた。これは、無解答も多く、問題文をしっかりと理解しないまま書き始め問われている内容の答えになっていなかったことにも原因があったと思われる。今後の授業で、問題文をしっかりと読み、他者意

識をもって根拠を明確にして自分の考えなどを書くことを大事にしていきたい。そのため、教科書に出てくるテーマに対してまとまりのある文章を書かせるところもあるが、帯学習に時々、3分間ライティングなど小さなテーマを与えてまとまりのある文章を書くことに慣れさせていく。

理科は、ほとんどの領域で長崎県や全国の平均を上回っており、確実に学力が定着している。特に、自分の考えの根拠を問うような問題に関しては、長崎県や全国の正答率を約5点ほど上回り、無解答率もほとんどの問題で0%とかなり低い。しかしながら、物理領域の電気回路の問題において、正答率が低い問題が見られた。学んだ知識を正しく使い活用すること、回路における関係性の理解について課題が見られる。今後は、これまでの学習内容を振り返りながら、授業中に復習する機会を取り入れ、定着を図っていく必要がある。学んだ知識を正しく身につけ、活用していくために様々なパターンの問題に取り組みさせることで力を高めていく。

## <2年>

国語科は県平均を上回り、良好な結果、数学科は大変努力を要する結果であった。

国語科は、「知識・および技能」「話すこと・聞くこと」「読むこと」では長崎県の平均を上回っており力が定着していると言えるが、「書くこと」においては3ポイントほど低い。記述式の正答率は県よりも7ポイント以上低く、書くこと全般に苦手意識を感じている生徒が多い。授業において短文で自分の考えを書く機会を増やし、毎単元末には根拠を示して自分の意見を書き、相互評価させるなどして「書く力」を伸ばしていく。

数学科は、学習指導要領のすべての領域で長崎県の平均を下回っている。特にヒストグラムの特徴をつかむなどの「データの活用」分野では、長崎県の正答率を約10%下回っている。しかしながら、計算等の技能は身につけており、数学的な技能の高まりは見られる。今後も、授業や課題を通して基本的な知識・技能の定着を図りながら、知識を結びつけながら解く活動を意図的に仕組み、力を高めていく。

## <1年>

国語科は市平均を下回り、数学科はほぼ同等ではあったが、ともに努力を要する結果となった。

国語科は、自分の考えの根拠を明確にして表現する問題に関しては、市に比べて正答率が低く、無解答率も20%を超えるなど自分の考えを書くことに対する抵抗があると考えられる。具体的には、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように工夫して表現する問題の正答率が低かった。今後は、授業の中である一定の条件に沿って自分の考えを適切に表現する練習を行い、まずは書くことへの抵抗をなくしていく。

数学科は、学習指導要領のほとんどの領域で長崎県や全国の平均と近い正答率であった。特に、整数や文字を利用した計算で全国平均を大きく上回っていた。しかし、分数や小数、比例・反比例、面積や体積の単元で課題が見られた。課題改善に向け、授業時に実際に実験を行い視覚的に訴えたり、感覚的に捉えたさせたりしながら、苦手意識を緩和させ、繰り返し取り組ませていくことで、力を高めていく。

梅香崎中学校では、【**自分の考えの根拠を明確にして表現する力**】を重点課題として授業改善に取り組んでいます。今回の各種学力調査結果では、3年生はその部分はかなり改善されました。他の学年はまだ不十分ですので、再度重点課題を意識して上記の対策に取り組み、今後も継続して学力向上に努めてまいります。